

はじめに

- 当施設で、認知症専門ユニットの創設にあたり、認知症プロジェクトが立ち上げとなった。該当する認知症周辺症状が顕著な方に対するケアを施設全体で考えていく為、事例検討が開始となった。
- そこで、当フロアにおいてはS氏を対象とした。S氏は、本人の所持物が見当たらない時や、体調が悪い時に不穏症状が出現する利用者であった。不穏症状として特に被害妄想や帰宅願望が著明にみられており、これらの症状の緩和を図りたく、S氏に関わった4ヵ月間の実践したケアの結果と考察をここに報告する。

事例対象者の紹介①

- S.H様 93歳 女性 2020.8.15入所 要介護2 MMSE 20/30点 A1 IIb
- R3.5.23屋外で転倒、イムス富士見へ搬送 右恥骨骨折があり、かかりつけ新座志木中央総合病院へ。入院中に十二指腸出血と上行結腸に癌が見つかり手術する。退院後ひとり暮らし復帰に向けて施設入所。アルツハイマー型認知症はご主人が亡くなってから急激に症状出現した。

食事 軟飯 常食1450kcal 2/3量 クリミール1日2本

排泄 終日リハビリパンツ パッド 日中トイレ 夜間ポータブルトイレ退所時自宅でトイレ20回

移動 車椅子 ブレーキかけられず自動ブレーキ付車椅子を使用中

体重 32.7kg(2022.2.9時点)

コミュニケーション 失語症あるが会話は可能 意思疎通可 指示動作できる。

転倒転落アセスメントシート 16点 危険度III

内服 フロセミド 1T1× クエン酸 1T1× ランソプラゾール1T1× グルコン酸K 1T1×
クロビドグレル 1T1×

家族より 「家ではあまり喋らない、切り替えがうまくいかないと混乱したり不穏になったりする。病院受診時も怒り出したりした。身体が疲れてしまいうらしく身体が辛いと、思い通りにならない事に怒り出す」との事。

事例対象者の紹介②

既往歴

アルツハイマー型 H30年頃より 上行結腸癌 R1.7.4 手術
十二指腸憩室出血 R1.7.4手術 右恥骨骨折 R1.5.23
心サルコイドーシス 30年前より
高血圧症 慢性心不全 貧血 右乳癌(30年前全摘)
変形性膝関節症 右膝人工関節 右人工股関節置換術
R3.3.2 ラクナ梗塞で入院 R3.6月肺炎
R3.6.14発熱にて新座志木中央総合病院入院 Th12 圧迫骨折
尿路感染症 気管支肺炎 間質性肺炎

事例対象者の不穏症状の特徴

・利用者との普段の関わりの結果、不穏症状として主に被害妄想・帰宅願望が著明に出現していた。そこで、どのような時にこれらの症状がでているか、調べたところ、被害妄想は環境の変化や大事なものが無い時に出ていた。

・自宅への帰宅願望は、例えば腹痛が発症した際に表情が穏やかであったのが突然険しい表情に変化し「シクシクとお腹が痛むのでもう帰ります」といった事や、トイレの失敗といった嫌なことが生じた時、天気が悪い時に「もう帰ります」といった帰宅願望が見られていた。

実施した援助の内容

I. 被害妄想に対する対策

- ・穏やかに過ごせる環境を作り、本人に職員のお手伝いを依頼をしてもらう等、本人が得意な事の促し。

II. 帰宅願望への対策

- ・積極的なトイレ促すことを目的とした声掛けの実施。
- ・職員は本人に寄り添う姿勢を意識。

III. その他

- ・日中、昼寝の促し。
- ・小さめのコップでこまめに水分摂取の促し。

実施した結果

周辺症状



・ 4ヵ月間の実施した内容を取り組んだ結果、左記のデーターから被害妄想の訴えに関しては、2月21日～5月1日までの期間は被害妄想の症状の回数が1月24日～2月20日までと比べると減少している。

・ 5月2日～5月20日までの期間で被害妄想の訴えが上昇していた。帰宅願望の訴えに関しては、2月7日～2月20日と5月2～5月20日の期間で帰宅願望の訴えが増えている。それ以外の期間では、さほど大きな変化は見られなかった。

考察

- 若松らの研究では、認知症の夕暮れ症候群の発生に対して、「生活リズムの乱れ」と「心理的要因の問題がある」と述べている。本研究の利用者は夕暮れ症候群では無いが、帰宅願望や被害妄想の状態から考えると、似ている点があると思われる。穏やかに過ごせる環境を作り、本人お手伝いを依頼するようなことは、生活リズムを整え、また本人の好きな事の実施で心理的要因の解消につながったことが被害妄想の減少に多少なりとも一定の効果につながったのではないだろうか。ただ、完全に解消したとは言えない為引き続き経過を見る必要がある。
- 帰宅願望の訴えに関してはデータを見る限りでは、明らかに改善があったとは言えないと考える。職員は本人に寄り添うように対応したが、帰宅願望の訴え自体は減少する事はなかった。寄り添うように対応することで安心感を与えることができたとしても、訴えの回数そのものを減らすまでは至らなかったと考える。以上のことから、帰宅願望の訴えを減らすことには至らなかったが、生活リズムを整えたことで、心理的要因の解消につながり、被害妄想の訴えの減少には一定の効果があったと考える。

まとめ及び参考文献

まとめ

実践したケアを振り返る事で解った事は、今回実践した4ヵ月間のケアでは、帰宅願望の訴えを減らすことには至らなかった。だが一方で、生活リズムを整えた事で、心理的要因の解消に繋がり、被害妄想の訴えの減少に一定の効果があったと考える。引き続き、継続した調査を実施していきたい。

参考文献

若松厚司

「夕暮れ症候群に対するDVD鑑賞の効果－認知症を有する4名の症例報告を通して－」